

販売所を開放しての「寺子屋教室」「楽しい教室」開催事業

二本松販売センター 佐藤 孝

読者の立場に立ち 地域コミュニケーションの輪を広げた 多彩な活動

■実施期間

平成 12 年 4 月～

■実施地域

福島県二本松市内

■活動概要

福島県二本松市、二本松販売センターの佐藤孝さんは、平成 12 年 4 月から毎週 4～5 日間、販売所の一室を開放し、趣味、楽しみを中心とした「楽しい教室」、生活に役立つ「寺子屋教室」と称して、手話教室や各種外国語教室、押し花、パステル画、折り紙、パソコン、大正琴などの各種教室を受講料無料で開講している。講師は地元住民を中心に迎え、開講以来の受講者は 1,500 人に上る。読者だけでなく、非読者の参加も受け付けている。

このほか、季刊タウン誌「遊歩道——地球を楽しもう！二本松で楽しもう！」の発行、全国的に知られる「ちょうちん祭り」を紹介するオリジナルポスターやうちわを作成して無料配布するなど、地域に根ざした情報発信を行っている。

*

佐藤孝（さとう・たかし）。昭和 60 年 7 月創立の二本松販売センターの代表取締役。同センターは福島県二本松市全域で福島民報をはじめ 20 紙を販売している。従業員 91 人。



学んだ言葉での自己紹介。難しい……



パッチワーク教室最終日。完成まであと少し！

『楽しい教室』……主に趣味・楽しみを中心に開催している。



- ・手話教室
言葉のバリアフリーを身につけよう
- ・押し花教室
様々な表現があり魅力タップリ
- ・パステル絵画教室
自由な発想で明るく楽しもう
- ・折り紙教室
鶴の折り方の再確認！想像力を育成します
- ・パッチワーク教室
非常に高いアレンジメント性が魅力です
- ・パソコン教室
今の時代は一家に一台は当たり前
- ・マジック教室
人間関係の潤滑油にどうですか？
- ・各種語学教室
世界中の人々と友達になろう



『寺子屋教室』……主に生活に役立つ教室を開催している。



- ・知ってガッテン！健康教室
当たり前のことが一番大事！
- ・いつまでも若々しくいるために
気持ちが若いって魅力的ですよ？
- ・役立つ「やさしいマナー」教室
家計は「金融知力」で大きく変わる



受講生から講師へ。ありがとうございました！



最終回で記念撮影。人の輪も広がりました。

古新聞回収事業による 循環型地域ネットワークの構築

いしくん 菟崎新聞店育伸社 菟崎佳樹、いけたに新聞店 池谷仁志、藤枝江崎新聞店 江崎友次郎

販売店、住民、障がい者、行政一体の 循環型地域ネットワークを展開

■実施期間
平成17年10月～

■実施地域
静岡県藤枝市

■活動概要
静岡県藤枝市の菟崎新聞店育伸社、いけたに新聞店、藤枝江崎新聞店の3販売所の所長は、平成17年10月から毎月1回、無料の古新聞回収事業を通して、新聞販売所と住民、市（行政）、障害を持った人が一緒になり、地域の森再生計画に取り組む循環型地域ネットワークを構築する活動を展開している。

この活動は、新聞間の競争を起点としないことが特徴で、新聞販売所としての役割と地域との結びつきを深め、障害者の就労支援や地域の森の再生に重点を置いている。

平成18年に開設した、地域の森再生基金には、新聞販売所と古紙回収業者、障害者施設（社会福祉法人ハルモニア）の3者が、回収した古紙1トンあたり50円で年間約50万円を拠出している。

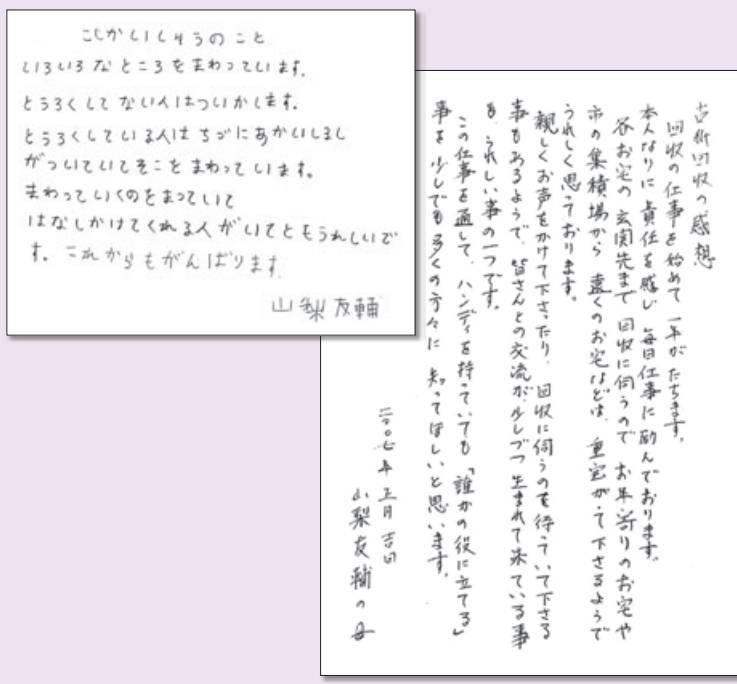
*

菟崎佳樹（やぶざき・けいじゅ）。菟崎新聞店育伸社が扱う新聞は、朝日・産経・静岡新聞。
池谷仁志（いけたに・ひとし）。いけたに新聞店が扱う新聞は読売・静岡新聞。
江崎友次郎（えざき・ともじろう）。藤枝江崎新聞店が扱う新聞は、毎日・読売・日経・静岡・中日新聞。



古新聞回収を知らせる
折り込み広告（チラシ）

■障害者施設（社会福祉法人ハルモニア）からの感想文



■笑顔でつながる循環型地域ネットワーク



■古新聞回収事業によるみんな笑顔の効果

住民にとって

古新聞を自宅の軒先まで回収に来てくれるので大助かり。
新聞購読そのものが「リサイクル意識の表れ」「地域環境への配慮」への行動に。

障がい者や関連団体にとって

就労の体験や働く場所の確保につながり、収入を得られる。

市（行政）にとって

行政の回収ゴミ減量につながり、財政負担が抑えられる。

新聞販売店にとって

購読者に喜ばれ、資源リサイクルの社会貢献ができる。

■古新聞回収のあゆみ

平成17年10月～	- 古新聞回収現状の調査 - 新聞販売店3社間の調整 - 社会福祉法人ハルモニア（障がい者施設）とのシステムづくり - リサイクル・サポーターの登録制度構築・登録開始
平成18年4月～	- 古紙回収サービス開始 - 地域の森再生基金開設（新聞販売店、古紙業者、障がい者施設の3者が、50円／トン＝年間約50万円を拠出してプール） - 古新聞回収のお知らせ紙の発行 - ホームページでの回収方法、回収日の情報提供
平成19年10月～	雑誌・ダンボールなど紙ゴミの追加回収をスタート
平成20年4月～	古新聞回収による収益の一部を緑・植林事業へ（住民と新聞販売店による森の再生計画）



3店会議



ハルモニア
打ち合わせ

※事業開始より2年を経て、新聞販売店・古紙業者・障がい者施設による基金を利用。リサイクル・サポーター（読者）に呼びかけ、植林活動実施を計画。



静岡新聞 平成18年3月31日付

